

ひろお

11

2014年 No.337
平成26年11月



「JAひろお感謝祭」開催される……2～3
第45回十勝総合畜産共進会（乳用牛の部）
……………4
第16回北海道総合畜産共進会（乳用牛の部）
……………5
2014北海道ホルスタインウインターフェア…6
役員視察研修……………7
平成26年度第2回地区別学習会……………8
中国人技能実習生受入に伴う現地面接行われる
飼料用とうもろこし収穫終わる……………9
てん菜収穫作業始まる
東豊似・オソウシ牧場 乳牛退牧
搬原用馬鈴薯収穫始まる
家畜ふん尿の適正処理について

組助の精算は忘れず年内に！……………10
年金友の会パークゴルフ大会
JAひろお青年部食育活動開催！……………11
JAひろお女性部すみれ会秋期親睦会
第26回JAひろお女性部室内運動会……………12
第59回十勝港まつり 町民仮装盆踊り大会出場…13
新規採用職員紹介
理事会……………14
表紙インタビュー・占い……………15
JAのがん共済……………16
予定利率変動型年金共済ライフロード…17
冬の金利上乘せキャンペーン……………18
食のはなし……………19
背表紙……………20

「JAひろお感謝祭」

開催される

9月6日〜7日「JAひろお感謝祭」が開催されました。毎年この時期にJA事業利用者の皆様に対し、感謝の気持ちを込めて町内で生産された農畜産物の販売、JA事業の紹介及び取扱商品等の展示とサービスの提供により、広尾町農業への理解とJA事業の利用拡大を目的として実施しているものです。

しみにしていると、大勢の方が来場されました。今年も、野菜の生育は良好で、日頃から丹誠込めて育てた、「とうもろこし」や「じゃがいも」など、数々の野菜が直売所において販売されたほか、新車や中古車の展示即売会とタイヤ、ガス器具等の販売も行われました。また、昨年に続き広尾漁業協同組合よりアキアジなど朝に水揚げされた鮮魚の販売や広尾町森林組合からは木製品や椎茸のホダギの販売も行われました。

牛乳消費拡大の取組としては、牛乳の無料配布や牛のぬいぐるみによるPRが行われ、また、豊栄会の皆さんによる食育をテーマにした人形劇や広尾警察署の協力による交通安全教室も行われました。飲食販売ではAコープサンタ村、本庄

水産による、そばやうどん、焼きイカや焼き鳥等の販売が行われたほか、女性部員らによる地元の食材を使った団子汁やポテトフライの販売、職員による縁日コーナーでは、輪投げ、スーパーボールやヨウヨウすくい、射的やフワフワドームにより子供達への遊びの場を提供しました。

恒例になった「100円で芋の詰め放題」のコーナーでは、今年も沢山の方が列になり、菓子まきや餅まきの時間になるとステージ前は大勢の来場者で賑わい、ビンゴゲームでは黒毛和牛の景品のほか、広尾漁業協同組合より提供された「広輝」（アキアジ）が景品として出され、当選者も大喜びでした。

ご協力いただいた生産者及び関係者の皆様方には大変お世話になりました。誠にありがとうございました。



農畜産物販売



じゃがいも詰め放題



今年の感謝祭は6回目を迎え毎年楽



牛乳の消費拡大



元気くんは今年も大人気!

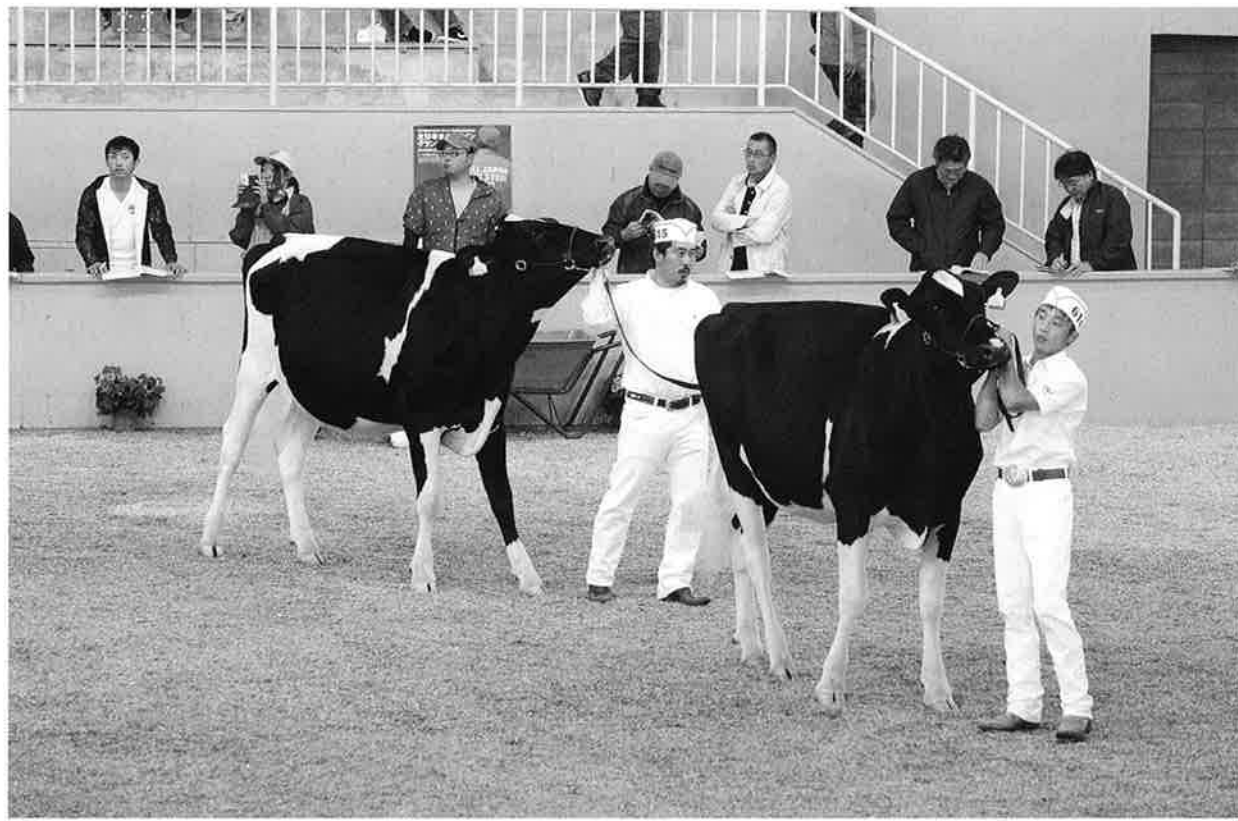


豊栄会のみなさんによる人形劇



たくさんのご来場、ありがとうございました。

第16回 北海道総合畜産共進会(乳用牛の部)



9月27～28日、北海道総合畜産共進会が、北海道ホルスタイン共進会場（安平町）にて開催され全道各地から厳しい予選を勝ち抜いてきたホルスタイン種440頭、ジャージー種38頭の出品がありました。

オフィシャル・ジャッジには、北海道ホルスタイン農業協同組合審査部部長 千葉義博氏、アソシエイト・ジャッジ&ジャージー部門オフィシャル・ジャッジには、北海道ホルスタイン農業協同組合審査部次長 小泉俊裕氏、ジュニアカップ・ジャッジ&リードマンコンテスト・ジャッジには、(一社)家畜改良事業団十勝種雄牛センター業務課長代理 福屋茂生氏の3名が担当し厳正かつ迅速に進めていました。

当JAからは齊藤美富牧場、佐藤孝一牧場、広瀬康史牧場、山口潤一牧場の4戸6頭が出品しました。全頭1等賞に入賞し大活躍でした。

なお、出品牛の主な成績は次の通りです。

第16回北海道総合畜産共進会(乳用牛の部)の主な成績

クラス	順位	名 号	出品者
未経産カーフ	1等2席	ハピイースト テンプトレス T オール	佐藤 孝一牧場
	1等3席	ドラマチック レット イット ゴー	佐藤 孝一牧場
未経産シニアミドル	1等3席	ノースドリーム サンチエス リズイー ET	佐藤 孝一牧場
未経産シニア	1等3席	ドラマチック スパークリング	広瀬 康史牧場
ジュニア2歳	1等7席	コルンダイク ダーハム フィーバー	山口 潤一牧場
成牛	1等4席	ラヴリッチ パイオニア GW ハーゲン クロエ	齊藤 美富牧場

第45回 十勝総合畜産共進会(乳用牛の部)



8月30日、十勝総合畜産共進会が、十勝農協連家畜共進会場において審査員(株)十勝家畜人工授精所フィールド調査部資源調査次長 児玉辰司氏を招き行なわれました。

当JAからは、久保進牧場、齊藤美富牧場、佐藤孝一牧場、広瀬康史牧場、山口潤一牧場、山本勝己牧場の6戸から12頭の出品があり、佐藤孝一牧場のハピイースト テンプトレス T オール号が第2部未経産カーフクラスで1等1席となり、チャンピオン決定戦においてリザーブジュニアチャンピオンを獲得しました。

なお、出品牛の主な成績は次の通りです。

第45回十勝総合畜産共進会(乳用牛の部)の主な成績

クラス	順位	名 号	出品者
未経産カーフ	1等1席	ハピイースト テンプトレス T オール	佐藤 孝一牧場
	1等2席	ドラマチック レット イット ゴー	佐藤 孝一牧場
	2等6席	ラヴリッチ レキシコン クーナ	齊藤 美富牧場
後代検定娘牛ジュニア	3等1席	キューバ スパークリング ジョーダン	久保 進牧場
未経産ミドル	2等5席	TMF マチダム チップ アンジー ET	佐藤 孝一牧場
未経産シニアミドル	1等1席	ノースドリーム サンチエス リズイー ET	佐藤 孝一牧場
未経産シニア	1等2席	ドラマチック スパークリング	広瀬 康史牧場
ジュニア2歳	1等5席	コルンダイク ダーハム フィーバー	山口 潤一牧場
後代検定娘牛3歳	2等4席	ハピイースト ヒンペル レディ カオリン	山本 勝己牧場
5歳	2等5席	ウイナーマイン CH ロイ シルファ	山本 勝己牧場
成牛	2等2席	ラヴリッチ パイオニア GW ハーゲン クロエ	齊藤 美富牧場
	3等2席	ウイナーマイン GW レイチエル	山本 勝己牧場

2014 北海道ホルスタインウインターフェア



10月26日、北海道ホルスタインウインターフェアが、十勝農協連家畜共進会場において、審査員に帯広市大正の酪農家 杉浦尚氏を招き行われました。

本町からは、斉藤美富牧場、佐藤孝一牧場、広瀬康史牧場、山本勝己牧場の4戸から6頭の出品があり、佐藤孝一牧場出品牛のドラマチツク レット イット ゴーが育成ミドルクラスにおいて1位を獲得しました。

なお、出品牛の主な成績は次の通りです。

各部成績

第3部 育成ミドルクラス	
ラヴリツチ レキシコン クーナ 4位	斉藤 美富牧場
ドラマチツク レット イット ゴー 1位	佐藤 孝一牧場
第4部 育成シニアクラス	
ハピイースト テンプトレス T オール 2位	佐藤 孝一牧場
第5部 未経産ジュニアクラス	
TMF マチダム チツブ アンジー ET 4位	佐藤 孝一牧場
第7部 未経産シニアクラス	
ドラマチツク スパークリング 2位	広瀬 康史牧場
第14部 5歳クラス	
ウイナーマイン CH ロイ シルファ 2位	山本 勝己牧場

役員視察研修

9月8日～9日、JA阿寒、JA標茶町、JA浜中を訪れ、JA阿寒、JA標茶町の農業生産法人設立への経過について伺いました。

初日はJA阿寒を訪問し、将来離農が懸念される農家の経営面積は1,840haにのぼり、既存農家での農地取得に限界があると考えられ、耕作放棄地が増加することが懸念されています。担い手の確保や農地を守る上で大型農業生産法人の設立の必要性が高まり、農家戸々に設立の必要性を説明しながら訪問し、赤字経営の場合の補填策など様々な問題点をクリアし、本年度800頭規模での建設を行うという段階でありました。

阿寒、釧路地区にはそれぞれTMRセンターがあり、約半数の酪農家が入入しており、搾乳用3種類、乾乳用、育成用のTMRを作成し、圧縮梱包での供給を行っています。また、そのほかに農業研修施設があり、平成20年より延べ38名の研修生を受け入れ、2年間の研修後には地元の人へ従業員として就農するなど、担い手確保の一役を担っています。

2日目は、まずJA標茶町を訪問いたしました。地域にはもともと3戸の法人がありますが、他の酪農家の規模拡大意欲が少なく、また法人設立の問い合わせもありましたが後継者がいない状況でありました。現在の酪農家戸数は282戸ですが、10年後には80戸も農家の離農が予測され、農地の流動化が懸念されていました。地域基幹産業である酪農を維持、発展させるためには新たな農業生産法人の必要性を感じ、JA、役場、雪印種苗株が手を組み、共同出資の形で牧場建設に乗り出しました。JA標茶町ではすでに経産牛50頭の牧場を運営していましたが、受け入れた実習生の就農希望もあり、農場を売却し新しく今回の法人立ち上げとなりました。規模としては300頭ですが酪農地域が広範囲のため、大型農場を設立するよりも、各地域につき3つ目と建設していったほうが地域のためになると判断していったほうが地域のためです。また、その地域にはTMRセンターがないため、将来的には小さなTMRセンターとして酪農家に飼料を供給したり、バイオガスプラント建設に

より糞尿問題の解決、更には発酵堆肥によるリサイクルベッドの構想もあるそうです。

午後からは、JA浜中町を訪問いたしました。浜中町では9万9千トンを超える生乳生産を行っており、15,000haもの広大な農地が利用されており、昭和58年より新規就農の取り組みを行ってききましたが、酪農家戸数の減少には追いつかない状況でありました。生乳輸送、家畜運搬、コントラクター事業や畜舎建設など地元運送業者や建設業者と密接に連携しており、酪農業の衰退が取り巻く業種にも大きく影響することが懸念されました。この地域が生き残っていくためには何をすべきか？そこで考えられたのが、異業種と連携した新規参入促進でした。平成21年からの農地法改正により企業による農業への新規参入が容易となり、JAと建設業等10社が出資し、農業生産法人「酪農王国」が立ち上がりました。建設業等異業種の企業に酪農経営を伝え、将来的には離農跡地に新規就農し



てもらおうなどして、法人経営の農場設立を促しています。この他、平成3年に新規就農者を養成する研修農場を建設し、担い手を自ら育て、平成25年までに36組を就農させるまでに至っています。

今回の視察研修は非常に有意義なものであり、今後の広尾町農業の維持・発展のために生かしていきたいと考えられています。